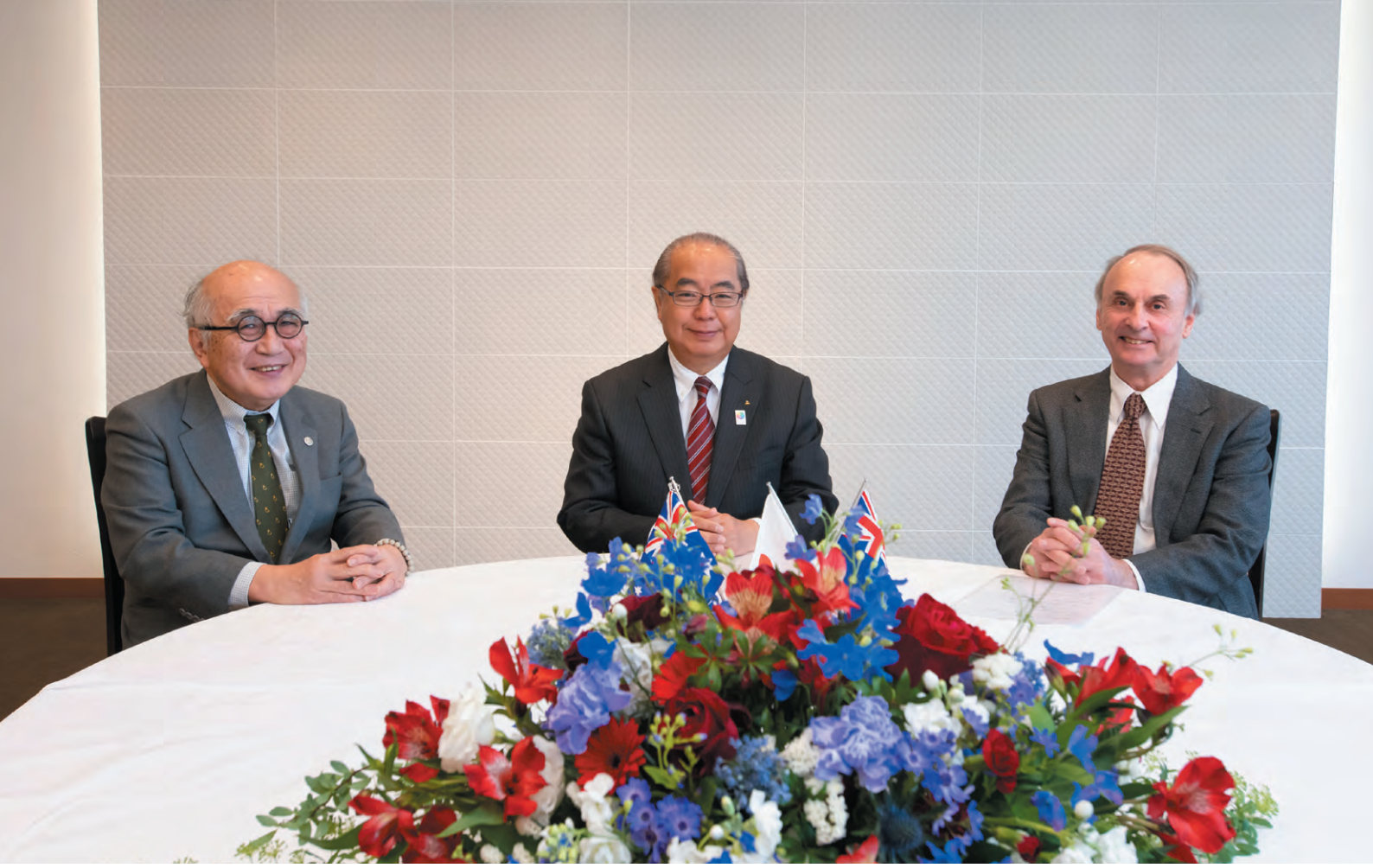

富山日豪ニュージーランド協会設立40周年記念　特別鼎談

ダイバーシティの先駆的存在として３国の友好親善に貢献

1982年８月に設立された富山日豪協会（1987年に富山日豪ニュージーランド協会に改称）は、親善訪問や留学生の交換事業、クリスマスパーティー、バスハイクといった多彩な活動によって両国との友好関係を深めてきました。この40年間を振り返り、新田八朗会長、林和夫副会長、リチャード・B・コーエン理事がそれぞれの思いや展望を語り合いました。

日　時　　2023年３月30日（木）　13：00～
場　所　　富山県民会館　８階会議室
出席者　　会　長　新田　八朗
　　副会長　林　　和夫
　　理　事　リチャード・B・コーエン

自由な国際交流の窓口として 1982年夏、協会が設立

林■本日は当協会の活動を振り返りながら、懐かしい思い出話やご意見などをお聞かせいただきたいと思います。コーエンさんには設立当初から在県オーストラリア人としてご尽力いただいてきましたが、入会のきかっけは？

コーエン■私はもともとオーストラリアの鉱山会社で技師をしていました。日本との貿易が盛んな会社で、届いた書類や荷物に書かれた漢字に興味をもち、奨学金をもらって２年間、東京で日本語を学びました。帰国後は従来の仕事のほか、日本人バイヤーの通訳も担っていました。その後、東京時代に知り合い結婚した妻と暮らしていたのですが、数年後、高岡で鉄鋼会社を経営する妻の父から「一緒に働かないか」と誘われ、1982年春、高岡市伏木に移住しました。妻が当協会設立時にオーストラリア大使と原谷初代会長との通訳をしていた関係で入会した経緯があり、そのつながりで当協会を知りました。当時は日本語も拙く、知り合いも少なかったので人脈を広げるチャンスだと思って入会しました。正直なところ、どんな会なのか、自分に何ができるかわからなかったのですが、とにかくやってみようと思って。

新田■その頃、私はまだ当協会にタッチしていなかったので、詳しいことはわかりませんが、当時は、現在のように若い人たちが自由に国際交流する手段はあまりありませんでしたから、当協会のような交流窓口は貴重だったと思いますよ。

林■そうですね。当時は個人で海外へ旅行する人も少なかったですからね。あの頃は「富山県青年の船」という内閣府の国際交流事業があり、毎年団体で海外視察に行っていました。1980年秋には、80数名がオーストラリアとニュージーランドを訪問しています。現地の工場見学やホームステイは新鮮な体験だったと聞いています。その時、富山とオーストラリアの友好関係が深まったことも、当協会の設立を後押ししたと言えるでしょう。

クリスマスパーティーでは 会長がサンタクロースに

林■さて、当協会ではこれまで交換留学や大使を招いた懇談会、セミナーなどさまざまな活動を行ってきましたが、印象に残っていることはありますか？

コーエン■私はパーティーやハイキングが良かったです。オーストラリア人、ニュージーランド人だけでなく、富山で暮らしている他国の留学生やALTの人たちも誘って楽しみましたね。

新田■パーティーは６月の総会後の懇親会と12月のクリスマスパーティーが恒例になっていますね。パーティーではオーストラリア産のお肉やオーストラリアワイン、ニュージーランドワインなども振る舞われ、本当に賑やかですよね。

林■クリスマスパーティーでは参加者がそれぞれ500円ぐらいのプレゼントを持参し、サンタに扮した人が大きな袋に入れて配るのですよね。

コーエン■サンタは会長や会員が順番にやっていましたね。私の娘も一度、サンタになりましたよ。

新田■あれ、順番なの？ 私は会長になってからずっとサンタをやらされていますけど（笑）。

コーエン■お似合いですからそれでいいですよ（笑）。

留学生とホストファミリーの多くは 今も交流が続いている

林■交換留学生との国際交流にも楽しい思い出がたくさんありますね。

コーエン■交換留学で富山に１年間滞在したオーストラリアの学生が、何年か経ってまた富山を訪ねて

くれたり、ホストファミリーと再会を楽しんだりするのは印象的でした。

林■最初の交換留学生のジョアン・リー・ハワードさんには、その後、私がオーストラリアに行った時にお会いしましたよ。

新田■交換留学は毎年実施していたのですか？

林■当協会で実施したのは1986年から1995年の派遣４回、受入５回です。当協会の会員もしくは当協会とは全く関係のない人から事務局で受入先を探してきました。当協会の主催は少ないですが、富山ロータリークラブが積極的にやっていますので、ほぼ毎年、留学生が富山に来ており、当協会も関わっているという状況です。

新田■なるほど、そういうことですね。当協会の会員はロータリークラブの方が多いから。そういえば、うちも父がロータリークラブだったので毎年、留学生を受け入れていましたよ。高校生の頃でしたが、いろんな国の人と交流できて楽しかったです。私も留学したいと思っていたのですが、タイミングが合わなくて結局行けなかったのが心残りです。うちに滞在した人たちとは、今でもメールでつながっていますよ。

林■何か思い出深いことはありましたか？

新田■そうですね……。日本のお風呂って、お湯を溜めた浴槽に浸かってそのまま出るじゃないですか。でもうちにきたオーストラリア人留学生は入った後、お湯を全部抜いちゃって。次に入ろうとした家族がびっくりしたことがありました（笑）。

コーエン■外国の生活習慣というのは、今はインターネットで瞬時に調べることができますが、当時はわからなかったですからね。私はオーストラリア人なので、ホストファミリーの方から時々相談を受けることがありました。「オーストラリアからの留学生を受け入れて一生懸命お世話しようと頑張っているのに、なぜか反発されてしまう。厳しすぎるのだろうか、馴染めないのだろうか、どうしたらいいのだろう」って……。でもそうやって悩んだり、考えたり、いろいろやってみることも国際交流なのですよ。

ニュージーランドでは地震跡地を訪問、全員で慰霊碑に花を手向けた

林■新田知事は2012年から会長に就かれて10年以上が経ちましたが、印象に残っていることは？

新田■周年記念のツアーですね。会長になってすぐの2012年９月に、創立30周年記念オーストラリアツアーに参加しました。シドニーでは豪日協会の会長・マクリントックさんのご自宅にお招きいただき、ホームパーティーを楽しみました。シドニーの高台にある豪邸で真下にシドニー湾、対岸にオペラハウスとハーバーブリッジが望めるロケーション。そんな素敵な場所で温かい歓迎を受けました。十数人と現地協会員数人での訪問にもかかわらず、奥様がすべてのお食事を作ってくださり、感動しました。そして翌日はカウラに行きました。太平洋戦争時、日本軍捕虜の収容所があったところです。そこでは当時、武器を奪われた日本兵がナイフとフォークを手に脱走を試みたという話や、多くの日本人が帰国できぬままそこで亡くなったという話を聞き、参加者全員で慰霊しました。

林■日本人捕虜のお墓があるのですよね。

新田■ええ。そこで長年、墓守をしてくださっている方がいて、「日本兵はかわいそうだった。自分はこれからも彼らの墓を守っていく」と言ってくださったのがとてもありがたかったです。

林■2017年は35周年記念でニュージーランドツアーに行かれましたね。

新田■はい。最初の訪問先であるクライストチャーチでは、2011年のニュージーランド地震で亡くなっ

た方々を慰霊しました。現地では倒壊したビルの跡地を訪れ、献花しました。慰霊碑には亡くなった方の全員の名前が刻まれ、富山外国語専門学校生だった12名の名前もありました。そして最後の訪問先のオークランドでは、日本人会の方々と交流し、観光スポットも巡りました。

生活文化や価値観の違いは会って話してみないとわからない

林■国際交流をすることで、それぞれの国の文化や生活習慣の違いを感じたシーンはありましたか？

コーエン■文化の違いというのは、交流してみないとわからないものですよね。ずっと自分の生活文化圏の中にいれば何も気づくことはないでしょう。でも交流することでいろんな習慣の違いや考え方の違いに気づきます。最初は受け入れ難いことも多い。でもそういう違いに気づく場所や機会を自分から作っていくことは、とても大事だと思います。私が若い頃は日本について知る方法はあまりありませんでした。当時、オーストラリアは周辺諸国とあちこちで喧嘩していましたからね。でも今はいろんな国の人々と自由に交流できる時代。だからもっともっと交流するべきだと思います。特にアジアとの交流は大事だと思っています。

林■私は家族とオーストラリアとニュージーランドに行ったことがとても有意義でした。最初は1988年７月、「建国200年記念オーストラリアツアー」で訪問し、ワールドエキスポのジャパンウィークに参加したり、シドニー豪日協会と交流したりしました。自然が豊かで、みんなフレンドリーで素敵な国だと思ったので、２回目は小学５年生だった長女を連れて行きました。メルボルンのホテルでは天井が雨漏りする、茶色い水しか出てこないなどのトラブルもあったのですが、それでもすごく楽しくて、娘も満喫していました。その次は80代になった父と私、長女、次男の４人で行きました。次男が旅行前、いろいろ下調べをして感心しました。現地の珍しいものを食べて驚いたり、コアラのぬいぐるみを買って喜んだり……。楽しい思い出ばかりですよ。

新田■オーストラリアとニュージーランドってもともとイメージが良いですよね。「オーストラリアは嫌い」っていう日本人はあまりいないと思う。実際に行くと、フレンドリーで、オープンマインドで、ますます好きになります。しかも人権を重んじる点だったり、自由主義経済だったり、そういう普遍的な価値も長年共有できているので安心してお付き合いできる国だと思います。一方で、文化の違いはあります。我が家にステイしていた交換留学生のことで一つ思い出しましたけど、ある留学生が気を使って食器を洗ってくれたのですが、お皿に付いた洗剤はほとんど流さないのです。「大丈夫！　体に悪くないから」ってね。でも母は怖がって、その子が寝た後にせっせと洗い直していました（笑）。最近はダイバーシティという言葉がよく聞かれますが、違う国の人と交流することで自分の常識が覆されることもあるし、自分の常識が世界では通用しないことに気づかされることもある。だから本当に交流は大事。林さんのお子さんは小学生という早い段階でダイバーシティを認識することができて素晴らしいと思いました。

環太平洋諸国を代表する３国として積極的に、継続的に交流していく

林■当協会の課題や展望についてご意見をいただけますか？

コーエン■私はこれからもお手伝いできることは何でもしたいと思っています。今はインターネットの時代で、世界中、何でも調べられるし、SNSで気軽

に交流できる時代です。若い人たちの間ではそういう交流が盛んです。一方で、当協会は物理的な交流が可能です。ですからこの２つをうまく結びつけて、新しい交流を展開していけたらいいと思います。自分の話で恐縮ですが、先日、会社で使用済みの木製パレットの処分費用に苦心していたら、娘が「それなら欲しい人を探せばいいじゃない？」とSNSで募ったら、あっという間にたくさんの人が取りに来て……。これまで何万円もかかっていた処理費用が要らなくなったのです。当協会もそんなふうにSNSを活用したり、他の団体と連携したりしながら、新しい運営の手法を模索していったらいいと思います。

林■同感です。新しい切り口は必要ですね。その一つとして、最近はガラス工芸の文化交流があります。数年前、富山ガラス工房で働いていた名田谷隆平さんと知り合いました。彼はオーストラリアでガラスを学んだ作家さんで、オーストラリアのガラス作家とも親交がある。それで、ガラス作品を通じた国際交流が始まったのです。

新田■そうですね。名田谷さんとのご縁から、ガラス工芸が当協会のコンテンツとして立ち上がり、富山市とオーストラリアのガラス交流をサポートするようになりました。やがてオーストラリアのガラス作家が来県するようになって、昨年はカースティ・レイさんの企画展も実現しましたね。

林■盛況でしたね……。では最後に、当協会のこれからに期待することを一言ずつお願いします。

新田■21世紀になって20数年が経ちますが、アジア太平洋地域がますます脚光を浴びてきていると思います。中でも日本とオーストラリア、ニュージーランドは中核となる国々であり、これからもますます良い関係性を育んでいけると思います。当協会としても、富山県の国際交流の窓口となって、積極的な活動を続けていきたいと思っています。

コーエン■今年はぜひクリスマスパーティーを楽しみたいし、ハイキングにも出かけたいです。この３年間はコロナ禍でほとんど交流できませんでしたからね。

林■そうですね。ハイキングをするなら、私はぜひ孫を連れて参加し、たくさんの方々と交流を楽しみたいです。本日はありがとうございました。

■プロフィール

会長　新田　八朗（富山県知事）
2012年に当協会４代目会長に就任。語学力の高さを生かし、両国との友好関係構築に尽力している。周年記念ツアーでは団長としてリーダーシップを発揮。

副会長　林　和夫（朝日建設株式会社代表取締役）
専務理事を経て2011年より当協会副会長。「建国200年記念オーストラリアツアー」やニュージーランドツアーに参加するなど両国との相互理解と友好交流の推進に積極的に貢献。

理事　リチャード・B・コーエン（ヴィレッジ・セラーズ株式会社代表取締役）
義父の仕事の関係で高岡市に移住。協会設立時にオーストラリア大使の通訳をした妻・中村芳子さんの縁で当協会に入会。良質なオーストラリア、ニュージーランドのワインを通じて両国の魅力を発信し、富山との懸け橋として活躍。